

本邦初公開！！

宮本武蔵の刀と拵え！！

武士（サムライ）が一生涯において、持つ刀の数はいったい何本であろうか？

戦国時代において、刀は消耗品であるということはいうまでもない。そして戦闘で刀身が曲がってしまえば、それを真っ直ぐになおすよりも、もはやそれを捨て、次の予備刀を素早く手に握るのが最良の手段である。

宮本武蔵が小次郎との決闘において、使用したとされる刀は今も残っていて、某博物館に展示されている。しかし、キズもなければ、曲がりもなく、また修復の後もない。

はたして本当に決闘に使われただろうか？

決闘に使われたならば、どんな名刀でも傷がつき、また本気で戦えば歪みが現れてくる。

はたして本当に武蔵が使っていた刀だろうか？ タイムスリップして確かめるしかない。

さらに、現在市販されている宮本武蔵の刀と拵えは、宮本武蔵の画像に写っている刀を模造されたものである。しかし、消耗品である刀とその拵えのことを考えると、武蔵は一生涯において同じ刀と拵え（刀装具）を使っていたとは信じがたい。

ここに紹介する刀と拵えは、昭和年代に、中山清先生の日本武道医学会に寄付されたものである。贈り主は、ある会社社長で、家系は江戸時代からつづく武士の末裔であったと聞いている。代々、この刀と拵えは宮本武蔵が愛用し、使用したものであると伝えられていたという。

◆刀身について：画像 1

刀身には「〇正」という太刀名が刻んである。専門家によれば、刀は少なくとも室町時代ぐらいあるという。全体の長さは、95.5センチである。古い時代の白鞘も付いている。刀の専門家によれば、少なくとも鎌倉時代はあるという。また注目したいのは、実践

に使われていて、曲がった痕がある。傷も直された痕がある。

◆拵えについて：画像 2

拵えには派手な装飾が一切なく、実戦に使われていたことが伺える。鞘の形状はおそらく今までに発見されていない形状である。というのは、一般的な刀の鞘は、全体は楕円形の丸みがあるのが一般的であるが、宮本武蔵が使っていたと伝えられているこの拵えの鞘の片面の丸みを無くして角度を付けられている。これは帯に刺すときに安定するように工夫されている。このような拵えは今までに見たことがなく、非常に実戦的で珍しい。

拵えに付いている下緒は、江戸時代のもので若干傷んでいるが丈夫そうである。

このような拵え、柄および鐔は、鑑賞用ではなく、戦闘用のものである。

◆柄と目抜きについて：画像 3

柄は正に武蔵柄そのものである。黒い鮫皮を用い、馬皮で巻かれている。目抜きは、薙刀である。薙刀の目抜きは今までに見たことがなく、これはまた宮本武蔵の流儀と関係があるのだろうか？。金具は目抜きを含めてすべて鉄製である。

柄の長さは28センチである。

◆鐔について：画像 4、5

かなり凝った鉄鐔がついている。サラマンダーだろうか？トカゲだろうか？斬られても再生するという思想の意味を持っている。クモと蟋蟀（コオロギ）も彫刻されていて、サムライ好みのデザインである。トカゲが彫刻された鐔は今まで見たことがない。

また、この鐔に彫刻されているコオロギの向きは「右向き」になっている事に注目する専門家がいる。というのはコオロギがしばしば鐔に登場するが、そのほとんどが左向きに彫刻されている。しかしこの鐔のコオロギの向きは、宮本武蔵が書いたと言われる水墨画にある鳥等の図の向きと同じである。このことからこの鐔は宮本武

蔵本人の作ではないか？と推測できる。トカゲの向きと考慮すると、起死回生、生と死の逆転の思想であろう。

この鰐は無名金家とも言われる。また見せた数人の専門家によれば、これも武蔵自作の鰐であろうとの推測である。

戦闘で付けられただろうか？鰐の縁には刀で打ち込まれた無数の斬り跡がある。

因みに、世間一般の常識では透かし海鼠鰐が武蔵鰐として知られているが、これは決して宮本武蔵が常に透かし海鼠鰐を愛用して使っていた訳ではない。宮本武蔵の一番有名な（画像6）を見ればわかるように、武蔵が手に持っている刀の鰐は透かし海鼠鰐ではない。

◆なぜ日本武道医学会に寄付されたのか？

刀は無登録であったため、戦後切断されるのを心配し、ずっと倉内で厳重に保存していたという。贈り主は中山先生の治療院に通っていたうちに、いずれ無登録の刀が処分されることを心配し、刀の由来と大切さを説明し、日本武道医学会に寄付し、その保存を託した。しかし、登録に失敗すると、刀が処分される恐れがあるので、中山先生も他界されるまで登録しなかった。

筆者は何とか登録しないといけないと痛感し、古美術の免許まで取得し、中山先生が他界されてから登録したのである。

中山先生がこの刀と拵えをかなり気に入っていた。自作のアルバムの数ページは、この刀の鑑賞写真と宮本武蔵の画像写真を飾っていた（画像7）。また、一回だけ宮本武蔵の研究会を開催したことも覚えている。

この伝・宮本武蔵が使っていた刀と拵えを公開することによって、宮本武蔵の研究に役に立てば幸いです。

平成27年7月13日

S. パリッシュ



画像 1



画像 2 鞘は帯にさしたときに遊ばないように角を付けられている。



画像 3



画像 4



画像 5

コオロギは右向きになっている！



画像 6



画像 7 この刀を手を持つ中山清先生写真と宮本武蔵の画像